



村のイチゴはランナーに好評。用意した約7,000個があっという間になくなりました

村公式キャラクター  
「イチゴちゃん」

## 東北・みやぎ復興マラソン イチゴもイチゴちゃんも大人気

10月14日、「東北・みやぎ復興マラソン2018」が、宮城県岩沼市の「岩沼海浜緑地北ブロック」をスタート・ゴールに開催されました。このマラソン大会は、コースが東日本大震災の浸水エリアにあり、被災地の復興を伝えるエイドステーション（飲み物や食べ物を供給する救護所）が約20か所に設けられました。その1つとして出展した村は、「いいたていちごランド」のイチゴ「雷峰」をランナーに振る舞い、前進する村の姿をアピール。イチゴちゃんも、元気いっぱいランナーを応援しました。



菅野村長にソリダゴを贈る伊集院さん(左)。早速庁内のあちこちに飾られました



## 飯舘産のソリダゴ 伊集院さんが出荷開始を報告

今年6月に村に移住し、松塚地区の畑でソリダゴを栽培している伊集院博さん(大久保・外内)が、10月15日に来庁し、菅野村長に初出荷を報告しました。「いいたての花」と書かれたオリジナルの箱の中には、黄色い花がほころんだソリダゴがぎっしり。出荷のスタートを報告した伊集院さんは、「種も収穫し、来年の準備はバッチリ。作りやすさも魅力なので、ぜひ若い人達にもつくってもらいたい」と話していました。



三浦さん(写真中央)と菅野分区長(右)、村社会福祉協議会安部光夫事務局長(左)、同佐藤照子主任生活支援員(後)

## 三浦澄枝さん(白石)が 金色有功章を受章

三浦澄枝さん(白石)が日本赤十字社の金色有功章を受章し、10月23日、村役場で、菅野典雄日赤飯舘村分区長(菅野村長)から、章記・勲章・門標などが授与されました。三浦さんは、昨春、避難指示解除と同時に帰村しました。「緑の景色を眺めたり、畑の土をいじったり、やはり気持ちがいいですね」。そうした暮らしの中で、「これまでの人生、皆さんに支えられて生きてきた。ご恩返しをしたい」と考え、今年4月に日赤社費を納入したそうです。その厚志と功績を讃えられ、今回の受章となりました。

## 新しい草野集会所が完成 鍵の引き渡し式を行いました

10月7日、完成したばかりの草野集会所で、鍵の引き渡し式が行われました。式では、門馬副村長から松下一男区長に鍵が引き渡され、地区の皆さんや村職員など約55人が、餅まきをして開所を祝いました。新しい集会所は、区の意向を取り入れた設計で、通しで使うと24畳になる2室の和室、フローリングのサロンスペース、キッチンなどを備え、広場や畑も併設しています。式の後には見学会を兼ねて会食。渡部功副区長の発声で乾杯し、今後の活用を話題に会話をはずませました。



あいさつする松下区長。「どなたにも使いやすい集会所。利用者が増えてくれればうれしいです」

## 深まる秋を彩るコンサート いいたてティーパーティー

交流センター「ふれ愛館」で、10月9日、自主文化事業「いいたてティーパーティー」の一環として、「バイオリンとピアノのコンサート」が開かれました。出演は、世界的なバイオリニストの鈴木秀太郎さんと、妻のゼイダさん。情感あふれる音色でクラシックの名曲を奏で、作曲者のエピソードなどを交えて約60人の聴衆を魅了しました。極久里のコーヒーとケーキを楽しみながらのコンサート。参加者は、「こうした機会はうれしいです」「生の演奏は違いますね」と笑顔を見せていました。



「いいたてお母さんコーラス」との共演も。名手の演奏に美しい歌声を重ね、交流を深めました

## 市町村対抗ソフトボール大会 村チームが1回戦に登場

第5回市町村対抗福島県ソフトボール大会に村チームが出場。開幕初日の10月13日、相馬市の相馬光洋ソフトボール場で1回戦に臨み、大玉村と対戦しました。村チームは、メンバーが声を掛け合いながら、チームワークよく善戦しましたが、好機を生かすことができないまま0対8で敗れました。平成27年に結成された村ソフトボールチームは、避難の影響により練習機会の確保に苦労しながら、この大会には第2回から連続出場しています。さらなる躍進を祈り、応援していきましょう。



秋晴れの空の下、力いっぱいプレーする選手達に、駆け付けた家族らが最後まで声援を送りました

※お詫びと訂正 10月号P16に掲載した「飯舘村長泥地区環境再生事業運営協議会」の記事中に「第2回を9月18日に開催した」という記述がありました。18日に開かれたのは「第2回特定復興再生拠点区域(長泥)整備推進会議」という別の会議です。関係各位にお詫びし訂正いたします。